

医薬協ニュース

440号

2008年(平成20年)3月

●目次●

- ・トピックス
中医協・諮問答申で08年4月の改定内容が
正式決定 1
- ・平成20年2月度理事会報告 3
- ・特別寄稿
「医薬協ニュース」編集の記憶 5
元総務委員会広報部会長 島田 徹
- ・お知らせ
賛助会員の入会について 7
当協議会新ロゴマークの制定について 7
- ・活動案内 8

■編集

医薬工業協議会
総務委員会広報部会

■発行

医薬工業協議会

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-3-10
日本橋銀三ビル

TEL:03-3279-1890 FAX:03-3241-2978

URL:<http://www.epma.gr.jp/>



中医協・諮問答申で08年4月の改定内容が正式決定

厚生労働大臣と中央社会保険医療協議会の諮問、答申が終わり、2008年4月の診療報酬・調剤報酬改定内容が決定した。言うまでもなく、今回の改定は前回同様、後発医薬品の使用促進策が目玉のひとつになっている。しかし、具体策は前回改定よりも一層、踏み込んだ内容で、改めて「ジェネリック元年の到来」を口にする識者も多い。医薬協会員企業にとってはビジネスチャンスであるとともに、品質確保、安定供給、情報提供に関する実力が本格的に試される時期でもある。

政府は後発医薬品使用促進策で社会保障関係費を約220億円圧縮することを決めている。しかし、この約220億円は、あくまで政府予算。言い換えれば国庫負担だ。国庫負担は医療費の約4分の1（残りは患者負担や、保険料などで対応）なので、実際、薬価ベースで支払われる医療費（薬剤費）は220億円の4倍の約880億円に相当する。すなわち、後発医薬品使用促進策で社会保障関係費を約220億円圧縮するというのは、先発医薬品から後発医薬品への置き換えによって医療費を約880億円縮小するということだ。かりに先発医薬品薬価を後発医薬品薬価の約2倍とすると医薬品市場から約1760億円の先発医薬品が消滅し、その分後発医薬品が880億円増えるという計算になる。

後発医薬品使用促進策で大きいのは処方せん様式見直しと後発医薬品調剤体制加算の新設。処方せん様式は「後発医薬品への変更可」の場合にチェックする方式から「変更不可」の場合にチェックする方式になるので、チェックがなければ調剤薬局で先発医薬品から後発医薬品に変更することが可能になる。一方、今回の改定で調剤基本料は処方せん受付1回につき42点だったのを40点に、月間の処方せん受付回数が4000回以上、特定医療機関からの集中率が70%超の薬局は19点だったのを18点にそれぞれ引き下げる。一方で、後発医薬品調剤体制加算が新設され、後発医薬品の調剤率が30%以上の場合に4点が加算される。調剤薬局で後発医薬品を調剤しやすい環境を整えたうえで、調剤基本料

の引き下げ分を新設の加算で補わざるを得ないような形になっている。また、急性期入院医療を対象に実施しているDPCの対象要件が緩和され、現在の360施設から一挙に、700施設を超える可能性も出てきている。この領域も後発医薬品の需要増が期待される。

ただ、現時点では変動要素も多く、実際にどれだけ後発医薬品市場が伸びるか予測は難しい。厚労省は当初予測以上の伸びを期待しているようだが、業界関係者はどちらかというところ慎重。大手調剤薬局は後発医薬品を積極的に採用する方向で準備を進めているが、中小調剤薬局はまだ今後の対応を決めかねているところも多いからだ。ある調剤薬局関係者は「先発医薬品と後発医薬品の値引率を比較したり、調剤報酬全体の改定が自らの経営にどう影響を及ぼすのかを検証したりするのに一定の時間がかかる」としている。今回の使用促進策の影響がはっきり出てくるのは数か月後になりそうだ。

平成20年2月度理事会報告

2月21日新大阪ワシントンホテルプラザ会議室において理事会が開催されましたので、付議事項についてお知らせいたします。

出席者：理事・監事13名、委員会・事務局4名

I. 審議事項

1. 広報・啓発活動に関する件

【議事要旨】平成20年度初頭に計画している新聞広告掲載に関する件ならびに4月9日から開催されるCPHIオフィシャルカタログへの広告掲載に関する件につき審議され、新聞広告については、一部修正の上、理事・監事会社均等負担により掲載することとされました。また、カタログ掲載については、掲載することとし、デザインの検討にはいることになりました。

2. 賛助会員入会に関する件

【議事要旨】フロイント産業株式会社より、賛助会員入会申込みがあり、審議の結果承認されました。

3. 平成20年3月度臨時総会付議事項に関する件

【議事要旨】第1号議案および第3号議案について説明が行われ、資料記載内容について、各理事・監事から意見を提出頂くこととされました。

4. 平成19年度予算執行状況および平成20年度予算編成方針に関する件

【議事要旨】平成19年度予算執行状況については報告が行われ、続いて、平成20年度予算編成方針が説明され、原案どおり承認されました。

II. 報告事項

1. 中医協薬価専門部会等について

2. 流通適正化委員会について
3. 信頼性向上PJについて
4. 新VI企画(ロゴマーク)について
5. 製剤研究会について

Ⅲ. その他

1. 第14回MR認定試験結果について
2. 大阪ATCエイジレスセンターでの一般向け講演について
3. 平成20年3月度臨時総会進行予定について
4. 第11回IGPA年次総会について
5. ジェネリック医薬品使用促進啓発ポスターについて

特別寄稿

「医薬協ニュース」編集の記憶

元総務委員会広報部会長

島田 徹

医薬品業界を離れてまだ1年しか経っていないのに、テレビのCMで「ジェネリック医薬品」の沢井製薬、東和薬品、大洋薬品工業等各社の社名を拝見する度に、何か昔の出来事のように懐かしい思いがするこの頃です。

国のジェネリック医薬品の使用促進の為の施策も進み、それに対応するジェネリックメーカーの努力と医薬協の普及活動もあり、数量ベースで17%まで伸びているとのこと。欧米並みの使用率を目標に更に伸ばす為には、国も今迄以上の施策を進め、ジェネリックメーカーもより一層の努力を要求されるだろうが、一步一步着実に進んでいってほしいと一市民として期待しています。

「医薬工業協議会」も4月より「日本ジェネリック製薬協会」と発展的に改称し、更なる発展を期するとのこと。かつて医薬工業協議会の活動に参加した者として益々の活躍発展を心より祈っています。

過日、小林広報部会長より「医薬協ニュース」も創刊から約37年、440号を数えるが、4月号より新しい名称でスタートすることになるので、「医薬協ニュース」としての最終号に編集経験者として是非寄稿して欲しいとの要望があり、編集作業の記憶を戻しながら作文してみました。440号も継続した「医薬協ニュース」の歴史のうち、数年間ですが編集に参加協力できた経験は貴重で懐かしい思い出です。2ヶ月に1回編集会議を開き、各委員会の活動状況を中心に業界の動向を検討し、2ヶ月分の編集企画を作成し執筆者に原稿依頼をする。そして毎月下旬にはゲラ刷りの校正と手間のかかる仕事でしたが、なんとか継続できたのも当時の編集委員の皆さんの努力と、何より早く原稿を提供して下さった執筆者の方々のご協力の賜物と今でも感謝しています。

編集会議ではタイムリーな記事が見つからず企画構成に悩んだり、投稿依頼では「誰が企画をしたんだ!」とお小言をもらったり、校正ではしっかり確認をせず誤った文字校正をして執筆者から指摘注意を受けたり、編集委員の皆さ

んの都合がつかず、事務局と2人だけで校正をしたりと色々ありました。担当者の交代で無事後任の方に引き継ぎ、お役御免になったときホッとしたことを思い出します。

今後、「日本ジェネリック製薬協会」となって名称が変わっても、編集委員のご苦勞は相変わらず大変だと思いますが、協会の発展と共に協会活動の広報手段として、充実した内容で発展継続してもらえることを期待しております。

私事で恐縮ですが、昨年12月に地域の民生委員を拝命して地域福祉活動に参加し、今までと少し違う方向からですが微力ながら厚生行政に協力させていただいています。

お知らせ

☆ 賛助会員の入会について

2月度理事会におきまして、下記のとおり入会(賛助会員)が承認されたのでお知らせ致します。

社 名： フロイント産業株式会社

所 在 地： 〒163-6034 東京都新宿区西新宿6-8-1

代 表 者： 代表取締役社長 堀 哲郎

☆ 当協議会新ロゴマークの制定について

2月度理事会におきまして、下記のとおり本年4月1日の名称変更に伴うロゴマークの制定が了承されましたので、お知らせ致します。



Japan Generic Medicines Association
日本ジェネリック製薬協会

* シンボルマークの意味

品質再評価結果を掲載するオレンジブックの“オレンジ”を基本色とし、中心の球体は錠剤ならびに活力あふれる地球をイメージしています。中心を、三つの輪で包み込んでいますが、それぞれの輪の意味は品質(ブルー)、安定供給(グリーン)、情報提供(レッド)を表しています。また、輪の色には次のような意味もあります。

オレンジ=健康・活力、ブルー=誠実・信頼、グリーン=バランス・調和、
レッド=活動力・積極性



<日誌>

2月 5日	品質委員会	東京薬業会館会議室
"	環境委員会	薬事協会会議室
2月 6日	薬事関連委員会連絡会	"
2月 8日	信頼性向上プロジェクト会議	東京薬業会館会議室
2月12日	総務委員会	薬事協会会議室
2月21日	理事会	大阪ワシントンホテル会議室
2月22日	総務委員会広報部会	医薬協会会議室
"	総務委員会広報専門部会	"
2月26日	薬価委員会	東京薬業会館会議室

<今月の予定>

3月13日	流通適正化委員会講演会	薬事協会会議室
"	再評価委員会	薬業会館会議室
3月14日	総務委員会	薬事協会会議室
"	ジェネリック研究委員会	医薬協会会議室
3月18日	総務委員会広報専門部会	"
"	くすり相談委員会	薬事協会会議室
3月21日	理事会	東京薬業会館会議室
"	臨時総会	"
3月25日	薬事関連委員会連絡会	薬事協会会議室
3月26日	薬制委員会	東京薬業会館会議室
3月27日	総務委員会広報部会	薬事協会会議室
3月28日	薬価委員会	繊維会館会議室

| 編 | 集 | 後 | 記 |

新年を迎え今年も元気に頑張ろうと気を引き締める間も無く、早や立春も過ぎてしまった。地球温暖化が問題にされて久しいがそんな事は何処へやら、東京も雪景色が繰り返される寒さとなり風邪やインフルエンザ、はたまた麻疹の流行も気になっているとき、思いもかけないニュースが報道された。国民の食生活を根底から脅かしかねない大事件が発生し、(メタミドホス、ジクロロボス)、餃子というごくごく一般的な食べ物により食への国民の不安感を増大させたものを、如何にして食の安全性を保証する事が出来るのか、心配の種である。

先週末に山の仲間と誘い合い、中央線沿線の千メートル前後の秀麗富岳12景(山梨県)の一つである蔵岳山に登り、富士山と山水画を思わせる雪景色を肴に美味しいワインで雪見酒を楽しんで来た。

私には人に美味しいものを食べさせる趣味があり、20年来会社の仲間を中心に「河豚を食べる会」を毎年今頃、先輩宅で開催している。

その日は朝の一番電車に乗り、長靴に竹籠の買い物籠を下げ、築地の場内市場に買出しに出かける。ふぐ、本マグロのカマ、鮫肝、帆立、たいら貝、白子等、その日の良い材料を仕入れる。献立はふぐのフルコース、本マグロの大トロを中心にした刺身の盛り合わせ、白子の紅葉おろしポン酢あえ等がテーブルに所狭しと並び、ビール、日本酒、ワイン、焼酎と好みの飲み物を飲み、勿論、ひれ酒が出るころにはドンちゃん騒ぎをして盛り上がり、旧交を温め、健康を祝い合う。

さて、業界を取り巻く状況を見てみると、中医協より診療報酬改定が答申され、医療制度改革の一環として小児・産科、勤務医対策も織り込まれているが、我々業界の関心事は、処方せん様式の変更によりジェネリック医薬品の使用量が、国が目論む様に5年間で30%以上に伸びてくれるのだろうかと言う事だろう。問題が提起されている、「安定供給、品質、情報提供等」に対して、医薬協として、信頼性向上PJを立ち上げ、其々の目標を掲げ、着実に目標を達成し、患者や、医薬関係者の信頼を獲得する事が大切である。

新年度から医薬協も「日本ジェネリック製薬協会」と名称を変更する。これを機会に一段と飛躍の年としたいものである。(T. Y)